（各課様式１）

予　算　要　求　資　料

令和６年度当初予算　　支出科目　款：商工費　項：観光費　目：観光開発費

事 業 名　岐阜関ケ原古戦場記念館活用促進事業費

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

観光国際部　岐阜関ケ原古戦場記念館　企画連携係
電話番号：0584-47-6070
E-mail：c23116@pref.gifu.lg.jp

１ 事 業 費　　31,438 千円　（前年度予算額：　　35,438 千円）

＜財源内訳＞

区　分	事業費	財源内訳							
		国　庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財　産 収　入	寄附金	その他	県　債	一　般 財　源
前年度	35,438	12,782	0	0	0	0	0	0	24,456
要求額	31,438	12,166	0	0	0	0	0	0	19,272
決定額	31,438	12,166	0	0	0	0	0	0	19,272

２ 要 求 内 容

（１）要求の趣旨（現状と課題）

岐阜関ケ原古戦場記念館の課題は、より多くの方に記念館の情報や魅力を届け、興味を持っていただき、実際に来館していただくことと考えている。

そのためには、ＳＮＳ（YouTubeやTwitter）やＨＰ、アプリなどを通じて記念館の情報を発信すると共に、イベント開催などで魅力や認知度を高めていく必要がある。

また、記念館の設置目的である「関ケ原の戦いに関する理解の増進」を図るため、理解度に合わせた小中高校生への教育プログラム展開を行うとともに、教育旅行誘致のための教育関係者へのプロモーションが求められる。

（２）事業内容

①ＰＲ広報事業
・ＰＲグッズの製作（ノベルティグッズ等）
・動画制作とＳＮＳによる情報配信
②教育プログラム事業
・小中学生向け調べ学習キットの開発
・コラボ事業（夏休みの自由研究）
・教育関係者へのＰＲ（広報資料、モニターツアー実施）
③記念館イベント
・累計来館者数記念イベント
・企画展等と連携した夏・冬特集イベント、講演会、甲冑展示

（３）県負担・補助率の考え方
県が実施する事業であるため、県負担が妥当

（４）類似事業の有無
岐阜県美術館、岐阜県博物館及び岐阜県現代陶芸美術館における広報事業及び教育プログラム

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	600	先進事例調査、連携調整
需用費	5,700	ＰＲ用消耗品（ノベルティ等）、ポスター、リーフレット印刷等
委託料	24,333	広報業務委託（広報動画、学習教材制作、イベントブース出展等）
その他	805	旅行会社誘客促進事業、モニターツアーバス借上
合計	31,438	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ
・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
Ⅱの３　地域にあふれる魅力と活力づくり
(2)次世代を見据えた産業の振興
④観光産業の基幹産業化
・岐阜県教育振興基本計画（第３次岐阜県教育ビジョン）
基本方針1　ぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

（４）事業主体及びその妥当性
県が管理運営する施設での事業であるため県執行が妥当

事　業　評　価　調　書（県単独補助金除く）

□	新規要求事業
■	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
　古戦場の整備を通じ、関ケ原古戦場の更なる魅力を創出し、観光客数の増加を図るとともに、関ケ原古戦場を核とした周辺地域の周遊観光を振興する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前（R1年度）	R4年度実績	R5年度目標	R6年度目標	終期目標（R ）	達成率
①入館者数		139,917	150,000	160,000	200,000	70%
②関ケ原古戦場来訪客数	16万人	20万人	23万人	28万人	30万人	67%

〇指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	緊急事態宣言を受け９月が休館となったものの、年間91,212人の来館者があった。
	指標①　目標：200,000人　　実績：91,212人　　達成率：　45.6　％
令和4年度	コロナ禍ではあったが、社会経済活動の再開が後押しになり、年間139,917人の来館者があった。
	指標①　目標：200,000人　　実績：139,917人　　達成率：　70　％

２ 事業の評価と課題

（事業の評価）

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） ３：増加している ２：横ばい １：減少している ０：ほとんどない	
（評価） ３	記念館をいかに運営していくかが重要であり、そのためにも有効な手段を用いて来館者数の増加に努める必要がある。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ３：期待以上の成果あり ２：期待どおりの成果あり １：期待どおりの成果が得られていない ０：ほとんど成果が得られていない	
（評価） ２	開館３年弱で３８万人の来場者があり、期待どおりの成果が上がっている。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ２：上がっている １：横ばい ０：下がっている	
（評価） ２	教育旅行を積極的に誘致するとともに、団体の予約から当日案内まで同一担当者による効率的な対応を実現している。

（今後の課題）

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 一般的に新規開館した博物館等施設では、いかにして開館後間もない時期に認知度を高め、入館者を確保しうる展示内容や企画を展開するかが重要といわれており、館の魅力や最新情報を継続してＰＲしていく必要がある。

（次年度の方向性）

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 関ケ原及び西濃地域の観光誘客のためにも継続的に館の魅力や最新情報をＰＲしていく。また、教育プログラムについては教育関係者や対象児童生徒のニーズ、意見等と取り入れ事業の改善を図っていく。

（他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果）

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	